

都市再生整備計画 事後評価シート
自治医大駅周辺地区

令和 7年 1月

栃木県 下野市

様式2-1 評価結果のまとめ

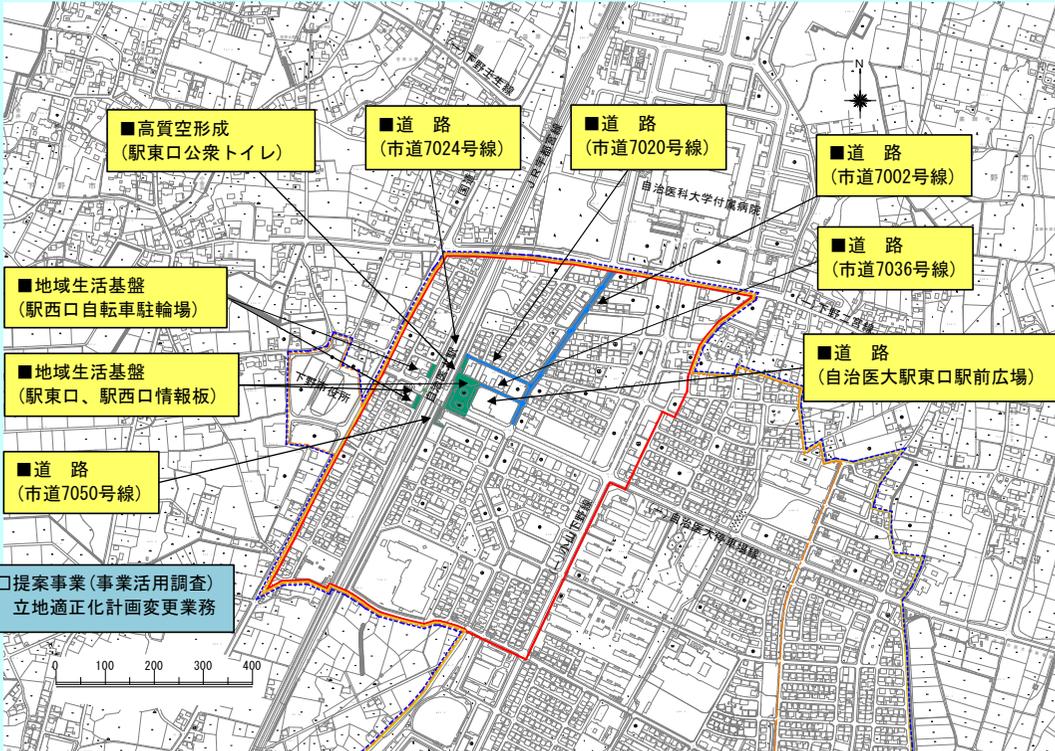
都道府県名	栃木県	市町村名	下野市		地区名	自治医大駅周辺地区			面積	43.5ha		
交付期間	令和元年度～5年度	事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	494.4	国費率	0.496				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 提案事業	事業名 道路(自治医大駅東口駅前広場、市道7002号線、市道7020号線、市道7036号線、市道7024号線、市道7050号線)、地域生活基盤施設(自転車駐輪場、情報板)、高質空間施設(公衆トイレ(自治医大駅東口))									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間施設(公衆トイレ(自治医大駅西口))	令和5年に計画変更して削除 自治医大駅西口における、まちづくりの検討の中で一体的に整備を進めるため			自治医大駅東口広場整備や東口トイレ改修、西口駐輪場の整備を実施することにより、駅前広場の使いやすさ満足度の効果が見込めるため、指標の目標値は変更なしとした。					
		提案事業										
	新たに追加した事業	基幹事業										
		提案事業	立地適正化計画変更業務	令和3年度第1回変更時に計画変更して追加			防災指針の追加が主たるものであり、指標、数値目標等への影響はないものとした。					
交付期間の変更	当初 変更	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	指標1	地区内の人口	人	1,856	H29	1,870	R6	1,845	△	あり なし	駅前広場及び駅周辺道路のバリアフリー整備により、誰もが便利に移動できる環境整備を行うことで、安全で快適な住みよいまちが実現し、世帯数は大きく増加したが、地区内の人口は目標値の達成に及ばなかった。 ※世帯数参考値 H29 855世帯、R5 949世帯(11%増)	
	指標2	道路のバリアフリーに関する満足度	%	25	H30	40	R6	72	○	あり なし	自治医大駅東口と自治医科大学附属病院を結ぶ周辺道路(市道7002号線等)について道路のバリアフリー整備、道路照明の設置等を行った結果、安全性・利便性の向上が図られ、高く評価された。	
	指標3	駅前広場の使いやすさ満足度	%	39	H30	60	R6	85	○	あり なし	自治医大駅東口駅前広場のバリアフリー整備、地域生活基盤施設の整備により、安全性・利便性の向上が図られ、高く評価された。特に段差のない歩きやすい歩道の整備、雨に濡れることなく乗降、待機、移動ができるシェルターの設置などが満足度をあげる要因となった。	
	指標4	-								あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	その他の数値指標1	-										
その他の数値指標2	-											
4) 定性的な効果発現状況	-											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	住民の意見を踏まえた自治医大駅東口広場及び市道の再整備		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後の公共事業においても、地域住民との意見交換会等を実施し、より良い施設環境を維持継続する。				
持続的なまちづくり体制の構築	自治医大駅東口広場花壇の美化活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地元中心のまちづくりとして、市としても活動に対して支援し、協力していく方針である。					

様式2-2 地区の概要

自治医大駅周辺地区(栃木県下野市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値	
大目標: 快適でうおいのある環境で新たな人の流れをつくるまちづくり 目標1: 人に優しい交通環境づくり 目標2: 快適に住み続けられる住環境づくり	地区内の人口	単位: 人	1,856	H29	1,870	R6
	道路のバリアフリーに関する満足度	単位: %	25	H30	40	R6
	駅前広場の使いやすさ満足度	単位: %	39	H30	60	R6







■高質空形成 (駅東口公衆トイレ)
■道路 (市道7024号線)
■道路 (市道7020号線)
■道路 (市道7002号線)
■道路 (市道7036号線)
■道路 (市道7050号線)
■地域生活基盤 (駅西口自転車駐輪場)
■地域生活基盤 (駅東口、駅西口情報板)
□提案事業(事業活用調査) 立地適正化計画変更業務

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 都市再生整備計画区域
- 市街化区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域




まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自治医大駅周辺の老朽化した道路、公園等の維持管理、空き家対策などの安全・安心に暮らせる定住環境の整備 ・駅周辺のバリアフリー整備をはじめ、誰もが便利に移動できる環境整備 ・平成28年度の新庁舎開庁によるコンパクトな都市構造の形成や都市機能の効率的な集積
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<p>【安全・安心に暮らせる定住環境の整備】</p> <p>適切な維持管理や当該整備区域外における市道の整備を行い、安心安全のまちづくりをさらに推進する。</p> <p>【公共交通サービス維持・充実】</p> <p>下野市地域公共交通計画と連携して取り組むにより、都市機能誘導区域へ快適にアクセス可能となり、外出機会が増加する。</p> <p>【人口減少の抑制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、公共施設、店舗等の生活を支える様々な機能を集約させるとともに、そうした機能によるサービスが受けられるよう促進を図る。 ・医療・福祉機能の維持と、子育て支援施設の充実や子育てサービスの提供をさらに推進する。 <p>【空き家対策】</p> <p>下野市空き家等対策計画に基づき、空き家対策を計画的に進め、市民が安心して安全に暮らしていけるまちづくりを推進し、移住・定住促進による更なる人口増加やコミュニティの活性化を目指す。</p>